

# がんセンター だより

Tochigi  
Cancer Center  
Dayori

地方独立行政法人  
栃木県立がんセンター



1 月号  
2021

謹

賀

新

年



表紙写真：栃木県立がんセンター 理事長、病院長、  
事務局長、副病院長  
※撮影のためマスクを外しています。

- p1・2 | 年頭所感
- p3 | 診療科のご紹介：泌尿器科
- p4 | 診療科のご紹介：精神腫瘍科  
公認心理師・臨床心理士の活動について
- p5・6 | 地域連携センターのご紹介  
インフォメーション

vol.  
19

# 年頭所感

地方独立行政法人栃木県立がんセンター  
理事長兼センター長 菱沼 正一



明けましておめでとうございます。

地域の医療機関の皆様には多大なる御支援御協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は、中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大し、人々の生活様式や社会情勢が一変した年となりました。日本ではクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」における感染拡大のニュースから始まり、4月から5月にかけては第1波の国内感染を抑えるために緊急事態宣言が発せられました。その後は海外からの入国制限、小中高校の全国一斉臨時休校、東京オリンピック・パラリンピックの延期など、さまざまな出来事が続きました。私たちの生活様式も大きく変化し、今までの「あたりまえ」が「あたりまえ」ではなくなった一方、ソーシャルディスタンス、テレワーク、リモートの会議や授業などが、新しい「あたりまえ」になりました。

当センターにおいても他の医療機関同様、昨年は感染防止対策の強化と医療体制の確保に奔走した年となりましたが、感染管理認定看護師のリーダーシップのもとに行われた感染防止対策が功を奏し、ひとりの感染者も出すことなく2020年を終えることができました。そして、2021年は5年間の第1期中期計画を終え、いよいよ第2期中期計画がスタートします。コロナ禍の中でも当センターは挑戦と変革の歩みを止めず、昨年からの手術支援ロボット「ダビンチ」の導入や、希少がんセンターの設立、バイオバンクの設置を進めてきました。本年

はこれらをさらに軌道に乗せ、飛躍の年となるよう全職員が一丸となって取り組みを進めて参ります。

さて、今年の干支である辛丑（かのと・うし）の「辛」は、思い悩みながらゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味するそうです。一方で「丑」は力強さの象徴であり、粘り強さ、誠実さを表し、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、丑年には、先を急がず目前のことを着実に進めることが将来の成功につながっていくといわれています。今春には、ようやく新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されるなど、わずかながら明るい兆し、新しい希望があります。コロナ禍に屈することなく、今後も当センターはがん専門病院として県民への医療提供体制を維持し、連携病院の皆様とともに地域医療に貢献していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

#### サーマルカメラによる来院者の体温測定



#### 手術支援ロボット「ダビンチ」の導入



#### 希少がんセンターの設立



診療科のご紹介

泌尿器科

泌尿器科 科長 貫井 昭徳

泌尿器科は尿路と男性性器、および副腎などの内分泌臓器を守備範囲としており、これらの臓器に発生する疾患に対し、内科的、外科的アプローチを行う診療科です。腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺、精巣、陰茎、副腎および後腹膜に発生する悪性腫瘍のみならず、一部の良性腫瘍を取り扱っています。

現在、泌尿器科は常勤医師2名と非常勤医師1名の3名体制で診療を行っております。平日の外来診療のほか、昨年9月より手術支援ロボット「ダヴィンチ」によるロボット手術が始まりました。今年度より勤務体制を一新し、前立腺癌の二次検診も再開しております。

- **腎癌、腎盂尿管癌**・・・腎癌に関しては、早期であれば臓器温存手術、小切開手術および腹腔鏡手術による低侵襲手術を中心にを行います。進行癌に対しては分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬等の薬物治療を中心に、他科と協力しながら手術治療や放射線治療を行います。進行癌であっても集学的治療を行い、生存率の向上を目指します。腎盂尿管癌に関しては、早期であれば腹腔鏡による低侵襲手術を行い、進行癌では抗癌剤による化学療法や免疫チェックポイント阻害薬等の薬物治療を行います。
- **膀胱癌**・・・膀胱癌では早期では内視鏡手術が中心となります。進行癌では膀胱全摘除+尿路変向術や抗癌剤、免疫チェックポイント阻害剤等の薬物治療を行います。
- **前立腺癌**・・・PSA検診の普及している栃木県において前立腺癌の診断、治療は重要であり、早期発見を目指して生検を積極的に行います。治療に関しては手術治療、放射線治療、ホルモン治療および抗癌剤による化学療法を行います。手術治療においてはロボット手術を中心に低侵襲手術を心掛け、治療成績の向上だけでなく、生活の質を可及的に落とさない様に留意します。

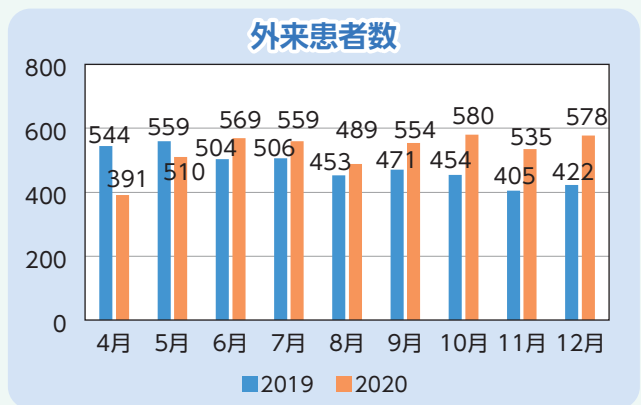
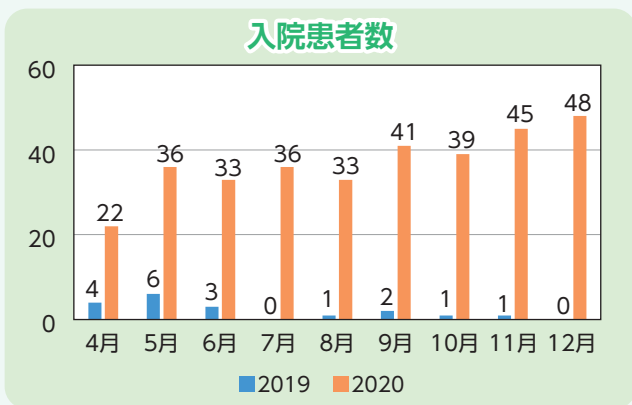
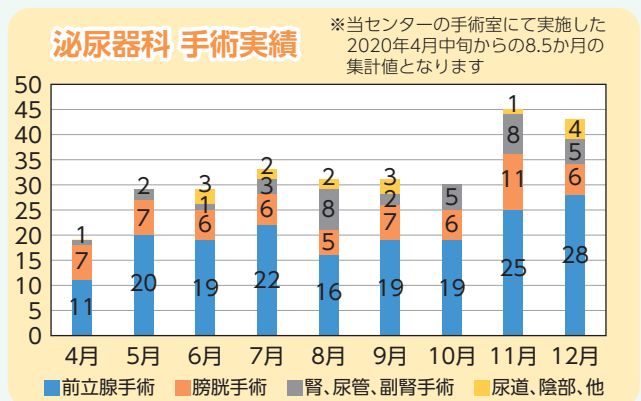
そのほか、副腎腫瘍においては腹腔鏡手術を積極的に行い、抗癌剤等の薬物治療も対応可能です。精巣癌、陰茎癌、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍に関しても内科的、外科的アプローチにより、専門的な治療を行います。

詳しくはこちら

今後も、栃木県立がんセンターとして専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供等、その役割を担い患者さんに安全な専門的医療を提供できるよう努力して参ります。



泌尿器科 医師及びスタッフ



診療科の  
ご紹介

## 精神腫瘍科

精神腫瘍科 科長 藤平 明広

開院以来、がん患者さんの心のケアを行ってきた心療内科が、2018年1月から精神腫瘍科として新たに診察を開始しております。私は2020年4月に赴任し、精神腫瘍科を担当しております。

当科の主な業務は、当センターで治療中、または治療歴のあるがん患者さんを対象とした精神疾患の診療となります。がん患者さんの中には適応障害やせん妄、うつ病などを発症するケースがみられ、これらの症状に対する診療を行っております。さらに、病院内の緩和ケアチームでの協働や、緩和ケア病棟でのカンファレンスに参加し、患者さんの病状を踏まえた心のケアに取り組んでおります。また、臨床心理士による患者さんや御家族へのカウンセリング、子どもサポート、グリーフケアなども実施しております。

さて、厚生労働省が示すがん対策推進基本計画（第3期）では、がんと診断された時から患者とその家族が、精神心理的苦痛に対する心のケアを含めた全人的な緩和ケアを受けられるような体制の整備が求められています。当センターは都道府県がん診療連携拠点病院でもありますので、当科の役割はますます重要になると考えています。

現在は、精神科医1名、臨床心理士1名という限られた体制ではありますが、心のケアに関しては、病棟・外来の看護師、緩和ケアチーム、がん相談支援センターなどの職員による懇切丁寧な対応がなされていますので、安心して当科を受診していただける環境が整っています。（ただし、精神科病床は御座いませんので、精神的な不安定さで一般病棟への入院が難しい場合、精神科病床を有する他院へご紹介させていただきます。）

最後に、近年では職場や学校等での心のケアの問題、災害等が起これば心のケアの医療チーム（DPAT等）の派遣、2020年には新型コロナウイルス感染症による心のケアの必要性について、その需要の広がりが見られます。当科においてもがん患者さんの心のケアに尽力し、患者さんの不安や悩みが少しでも取り除かれるよう努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

詳しくは  
こちら

## 公認心理師・臨床心理士の活動について 公認心理師 / 臨床心理士 丸山 睦

がんは身体の治療だけでなく、心のケアも重要です。大事な人に心配や迷惑をかけたくないとつらい思いを抱え込んだまま治療に臨まれている方、再発や転移の知らせに大きな動揺を示される方など、治療の段階や患者さんの背景に沿ったサポートが必要です。また、がんの診断・治療後に暮らしていくこと（がんサバイバーシップ）の中で、病気を経験した自分との折り合いのつけ方が心理的課題になることもあります。

公認心理師 / 臨床心理士は、治療の初期段階から緩和ケア主体の段階まで、治療の時期を問わず患者さんに対するカウンセリングを行っています。言葉にすることで気持ちが楽になったり、もやもやしていた思いが整理されていったりすることもあります。ただし、つらい状態が長く続く場合などには、精神腫瘍科の先生とも連携してその人に合ったお薬を処方してもらうこともあります。

もうひとつ大事なことは御家族の支援です。家族は「第二の患者」とも言われるように、がんは患者さん本人だけではなく、御家族にとっても大きな影響があります。特に子育て世代の患者さんの支援に力を入れており、子どもにどのように親の病気を伝えたら良いかという相談や、病気が悪化していく段階でのお子さんへの伝え方などをサポートしています。2020年12月には、「子育て世代の患者・家族の会」を行い、同じ立場の患者さん同士の交流の場を設けることができました。このほか、患者さんが亡くなられた後の悲しみが長く続く場合には、御遺族に対するカウンセリング（グリーフケア）も行っております。

今後は、血液疾患のクリーンルーム病床患者さんのサポートや、妊孕性に関する相談にも取り組んでいきたいと思っています。がん患者さんやその御家族にきめ細やかな心のケアが提供できるよう、今後も前進して参ります。



# 地域連携センターのご紹介

## 新年のご挨拶

地域連携センター センター長 中村 洋一



新年あけましておめでとうございます。

地域の医療機関の皆様には、日頃より多大なる御支援御協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は中国武漢から広まった新型コロナウイルスの世界的流行を受け、県内でも「第3波」が深刻化するなど、「県医療危機警報」が発令される混乱の中で過ぎた2020年でした。本年こそは平常の生活に戻れることを切に願っており、おそらく皆様も同じ思いの中でこの新年を迎えていることと思います。

さて、当センターはコロナ禍にあっても都道府県がん診療連携拠点病院として、がん患者さんへの医療提供体制に影響を及ぼさぬよう、その使命を果たして参ります。県内の医療機関が新型コロナウイルス対策にかかりきりとなり、がん患者さんへの医療提供が滞ることのないようがん診療をサポートして参ります。

地域連携センターでは、地域の病院・診療所の皆様とより緊密な連携を図りながら、県民へのがん医療提供体制の維持に努めて参ります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

## 地域連携センターの活動について

地域連携センター ゼネラルマネージャー  
浦田 朋美

地域連携センターは「当センターと地域の病院・施設をつなぐ部署」です。現在、医師でもある中村地域連携センター長をはじめ、地域連携センター専従の看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員および、薬剤師、渉外業務専門員で構成されています。多職種チームで、患者さんがスムーズに医療機関へ受診・入院できるよう、また医療機関から退院・転院することができるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉にかかわる多くの施設をつなぐ役割を担っています。

### 主な業務内容

#### 【前方支援】他の病院や診療所からの患者紹介を受けて行う病診・病病連携

- 地域医療機関からの紹介受診調整
- 紹介元医療機関への患者の受診報告書、返書管理
- 他院からの転院受け入れ
- 他医療機関への逆紹介（医療機関検索、診療予約申し込みなど）
- CT・MRI検査など受託検査予約調整
- 患者の診療情報に関する院内・院外との調整
- 地域医療ネットワークシステムの運用

#### 【後方支援】前方連携とは逆に病院の外に患者を移行する支援

- 退院支援、退院調整（在宅療養、転院、施設入所など）
- 関係機関担当者からの連絡窓口（ケアマネジャー、訪問看護など）

## 【渉外・広報活動】

- 医師会向けの出張講座、情報交換会などの企画、運営
- 医療連携認定証の発行

主に事務職員が中心となり、前方支援業務・渉外・広報活動を行っています。後方支援業務では医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師が中心となり、患者さんが安心して療養できる環境を選択できるように支援しています。

地域連携センターは、連絡調整窓口となっていますので、医療機関、関係機関からのお問い合わせは下記までご連絡ください。



地域連携センタースタッフ



栃木県立がんセンター  
地域連携センター  
☎ 028-611-5503



また、退院後も継続した看護が必要となる方や、ご自宅での療養を希望される方へ、安心して療養が受けられるようお手伝いします。まずは担当医師・看護師へご相談ください。

## インフォメーション

### ～希少がんセンター～ 希少がんの相談を始めました

希少がんセンターでは、希少がんに悩む患者さんや御家族をサポートするため、希少がんについての相談窓口を開設しました。患者さんや御家族のみならず、一般の方、医療関係者の方からの相談も可能です。

詳しくは希少がんセンターのホームページをご覧ください。



#### ○希少がんとは

患者数が少ない、まれながんである希少がんは、厚生労働省「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会報告書（平成27（2015）年8月）」で、次の二つの条件に該当するがん種と定義されています。

- 概ね罹患率・（発生率）人口10万人当たり6例未満
- 数が少ないため診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きい

### ～泌尿器科～ PSA検査のご案内

PSA値が高くなる疾患には前立腺の癌、肥大症、炎症などがあります。PSA値の高さの程度によって癌の確率がほぼ決まっており、4ng/mL前後の基準値の場合でも約30%の方に癌が発見されます。

PSA値が高いと言われたら、放置せず泌尿器科の専門施設を受診し、医師に精密検査が必要かどうか相談をお勧めいたします。

当センターの泌尿器科を受診される際は予約センターへご連絡ください。



#### PSA検査日

火・午前	水・午前	金・午前
武井	貫井	貫井・武井

予約センター ☎028-658-5012  
受付時間 平日 8:30～16:30

# 医療機関の皆様へ予約窓口のご案内

ご紹介いただきありがとうございます。当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。ご予約の際は、下記までご連絡ください。

**予約センター ☎ 028-658-5012**

**受付時間 平日 8:30 から 16:30**

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

● 病診連携に関するお問い合わせ

## 地域連携センター

☎ 028-611-5503

平日 8:30 から 17:15

● がんに関するご相談

## がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 8:30 から 17:00

● がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

## ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

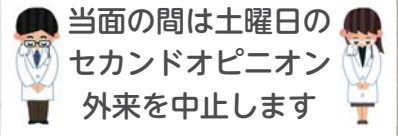
平日 8:30 から 17:00

# セカンドオピニオン外来のご案内

■ 平日午後

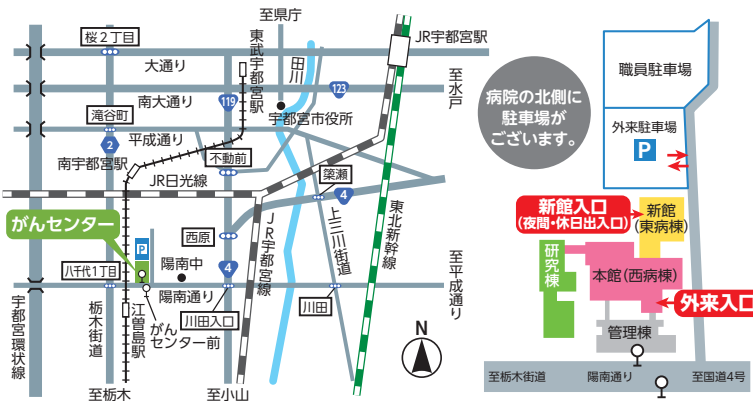
	月	火	水	木	金	
消化器外科	主に胆・膵		菱沼 正一 (第2週のみ)	菱沼 正一 (第1・第3・第4・第5 のみ)		
	主に肝			尾澤 巖		尾澤 巖
	主に大腸				藤田 伸 松下 尚之 藤田 剛 林 雅人 (※週毎の交代制)	
主に食道・胃						
頭頸科				横島 一彦	横島 一彦	
骨軟部腫瘍・整形外科	菊田 一貴					

■ 土曜日午前

1月16日(第3土曜日)	
消化器外科 (肝胆膵)	白川 博文
 <p><b>当面の間は土曜日のセカンドオピニオン外来を中止します</b></p>	
泌尿器科	貫井 昭徳
がん予防・遺伝 カウンセリング外来	菅野 康吉

※予告なく変更となる場合があります

予約センター ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 8:30 から 16:30



## 交通のご案内

### 電車・バス

- JR宇都宮線「宇都宮駅」より  
⇒西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)
- 東武宇都宮線「江曾島駅」より  
⇒東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

### 自動車

- 東北自動車道「鹿沼I.C.」より  
⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を超え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)  
⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)